

2024年

学校法人北海道科学大学のご案内

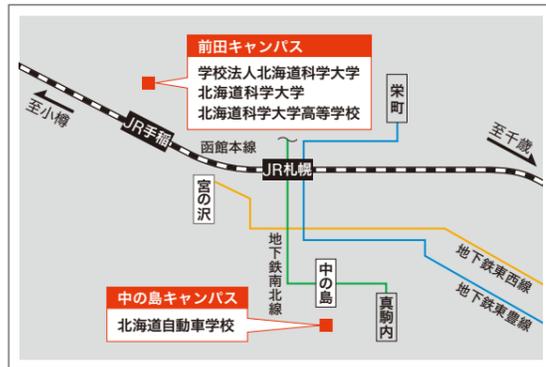
事業報告書

Hokkaido University of Science

EDUCATIONAL CORPORATION GUIDE

ANNUAL REPORT 2024

1000



前田キャンパス

JR手稲駅から

- バス 約9分(北口、JRバス)
- JRバス 科学大学線【循環手48】
- JRバス 明日風線【手85】
- タクシー 約5分
- 徒歩 約25分

地下鉄宮の沢駅から

- バス 約25分(JRバス)
- JRバス 新発寒線【宮79】

札幌近郊からJRでのアクセス

近郊駅からJR手稲駅までの所要時間(快速)

- 札幌駅～ 約10分
- 小樽駅～ 約22分
- 新千歳空港駅～ 約50分



〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
TEL: 011-681-2161 FAX: 011-688-7639
HP: <https://ed.hus.ac.jp>

企画編集・発行: 学校法人北海道科学大学

+Professional

ヒューマニティ、コミュニケーション力、課題発見解決力、自己実現力といった基盤能力を基に、専門性を身につけた人材を育成します。すべての設置校に共通する、わたしたちのスローガンです。

北海道科学大学
北海道科学大学高等学校
北海道自動車学校



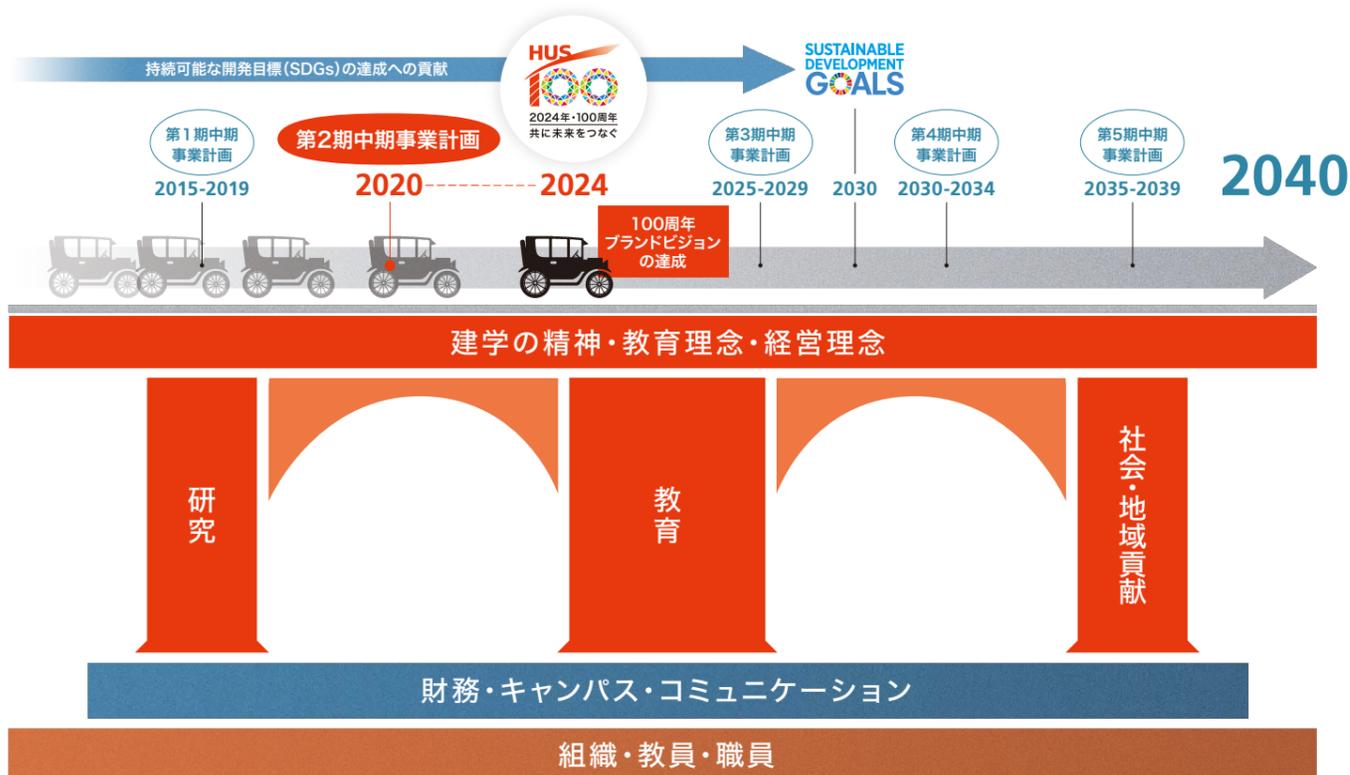
経営理念

新しい価値を創造する実学系教育を通じ
 地域社会からの期待に応え、
 一人ひとりが輝く、
 北海道の発展に寄与する人材を育成する。

- 新しい価値を創造する—一人々の暮らしを快適にし、幸せ・喜びを共有できるミライを生み出すこと
- 実学系教育を通じ—地域の人々の暮らしを支える「人材」「学び」「知識・技術」をつなぎ合わせ、共に学び、主体的に考える教育体験を提供すること
- 地域社会からの期待に応え—地域の様々なコミュニティとパートナーシップを築き、北海道が抱えている問題に真摯に向き合い、取り組むこと
- 一人ひとりが輝く—「得意・専門性」を生かすチームづくりによって、イキイキと学びあう・成長する組織・文化をつくること
- 北海道の発展に寄与する人材を育成する—北海道の発展に寄与する材料(データ)を切り口に、協働による成果を生み出す「+Professional」人材を育成すること

HUS Grand Design 2040 HUSグランドデザイン2040

本法人は創立100周年を迎える2024年以降も、これからのより良き社会の創造と持続的発展に貢献することが必須と考えています。そこで、高等教育機関の3本柱である「教育」「研究」「社会・地域貢献」を持続可能な開発目標(SDGs)と連動しながら、社会環境の変化を踏まえた、新たな将来像・運営方針として「HUSグランドデザイン2040」を策定。地域を活性化する教育機関としての役割を果たすべく、人々の暮らしを支え、永続的な社会の維持・発展に寄与します。



学校法人北海道科学大学 理事長 苫米地 司

本法人は、1924(大正13)年の自動車運転技能教授所の開設から始まりました。以来、国内のものづくり技術の発展と産業界の要請に応え、北海道自動車学校、我が国初の自動車工学専門教育機関であった北海道自動車短期大学(北海道科学大学短期大学部)、北海道工業高等学校(現北海道科学大学高等学校)、北海道工業大学(現北海道科学大学)、北海道薬科大学(現北海道科学大学)と順次開学し、北海道の理工系高等教育の一翼を担って参りました。この間、法人全体で約10万人の卒業生を輩出し、2016年に北海道科学大学高校が開学60周年、2017年に北海道科学大学が開学50周年を迎え、そして、2024年には法人創立100周年を迎えます。

今後、18歳人口の減少に伴い、大学間の競争が激しくなることが予想され、Society5.0、人生100年時代に対応した人材養成が求められている中で、本法人がより良き社会の創造と持続的発展に貢献することが必須と考えています。そのためには、創立から現在に至るまでの歴史と伝統に裏付けられた実績を基に、全ての教職員が共有する本法人としての進むべき理念として、左記の経営理念を明示しています。

また、社会環境の変化を踏まえた新たな将来像・運営方針として、「HUSグランドデザイン2040」を策定しています。

本法人は、2024年度を大きな節目と捉えています。その核となる法人創立100周年は、本法人に関わるすべての皆様と記念行事・イベントなどを通じて感謝・感激・感動を共有すべく、教職員一丸となってあらゆる取組を推進する一年にしたいと考えています。また同時に、100周年ブランドビジョン『基盤能力と専門性を併せ持つ人材を育成し、地域とともに発展・成長する北海道No.1の実学系総合大学を実現します。』を達成する一年でもあり、この達成に向けて進めて参りました第2期中期事業計画も最終年度を迎えます。

大詰めを迎える第2期中期事業計画として、大学では全学生が受講する新・基盤能力教育プログラム「HUSスタンダード」がスタートします。また、高等学校では、系列大学へ進学する場合、3年次後期に大学の科目を早期履修し、高専で単位を相互認定することができる「コンカレントプログラム」がスタートします。高専が同じキャンパスに位置するメリットを最大限活かし、より充実した高専一体教育を展開するとともに、本法人スローガンの「+Professional」な人材育成のさらなる推進を行います。また、地域に根ざし地域とともに発展・成長する学校法人として、地域貢献活動の強化及び新キャンパス構想の検討も踏まえ、大学に新センター「地域共育センター」を設立し、地域社会の発展・成長に貢献する人材育成を進めて参ります。

本法人はこの節目の一年にさらなる飛躍を目指し、改革の歩みを止めず前に進んでいく所存であります。また、100周年を迎えたその先も、社会環境の変化に柔軟に対応し、地域社会とともに発展・成長していく学校法人を目指し続けます。



Symbol Mark



Slogan

+Professional

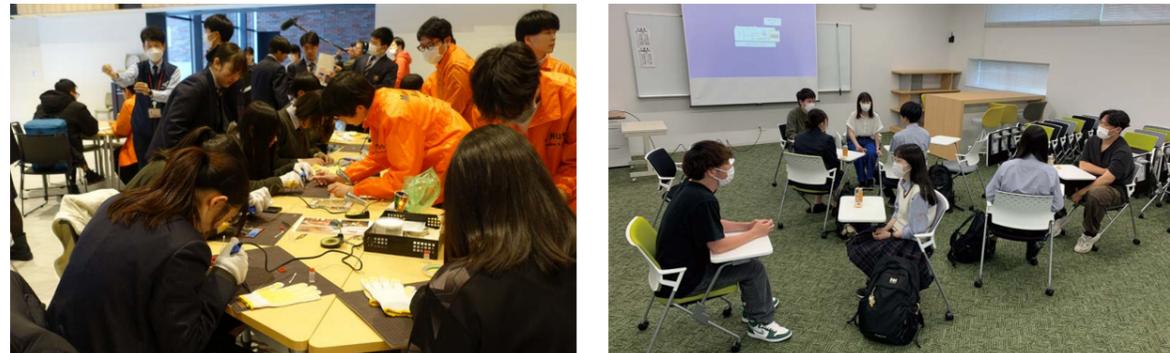
北海道という我々が根ざし貢献すべき土地を表す「H」の文字と、学生・生徒、地域、教員、職員を表すリボンが一つに交わり(育み)、大きく広がっていく(成長していく)、地域共育力を象徴しているのが、Progress「H」と名付けられたシンボルマークです。鮮やかなオレンジ色(アクティブオレンジ)は私たちの教育にかける熱い想いを表しています。

「+Professional」(プラスプロフェッショナル)をシンボルマークと共にスローガンとして掲げます。ヒューマニティ、コミュニケーション力、課題発見解決力、自己実現力といった基盤能力を基に、専門性を身につけた人材を育成します。

第2期中期事業計画重点改革事項

第2期中期事業計画(2020～2024年度)は、2024年度に最終年度を迎えます。計画の核となる3つの重点改革事項について、様々な取組を進め、中期事業計画の実現を目指します。

北海道科学大学高等学校の 前田キャンパス移転による高大一体教育の実現



北海道科学大学高等学校は、2023年4月に豊平区中の島から手稲区前田にキャンパスを移転しました。高校と大学が同じ敷地内にあることで、探究学習、高大接続プログラム、課外活動などといった高大連携事業「HUS LINKS」を通じ、日常的な交流・コミュニケーションが盛んになりました。2024年度は、北海道科学大学への進学を予定している生徒が大学の講義を受講するコンカレントプログラムがスタートし、より一層の高大一体教育の実現を目指します。

100周年記念会館による 「学ぶと人生をつなぐ」能動的学習の推進



2023年3月にリニューアルしました100周年記念会館(愛称「HUS+H(ハッシュ)」)は、高校生・大学生・教職員などに積極的に利活用され、2023年度の入館者数はおおよそ13万人と過去最高となりました。また、館内ホールでは大学生が制作に関わった映画の上映会を開催するなど、地域住民も多く来場しました。今後も多様な活用を進めます。

Society5.0に対応したデータサイエンス教育の全学展開

北海道科学大学では、2021年度新入生から「Society5.0に対応したデータサイエンス教育」を全学で展開しています。2023年8月には、工学部を対象に実施しているプログラムが文部科学省による認定制度である「数理・データサイエンス・AI認定制度(応用基礎レベル)」に道内私立大学で初めて認定されました。



数理・データサイエンス・AI 認定制度(応用基礎レベル) 認定 ロゴ
(認定期限:2028年3月31日)

法人創立100周年

学校法人北海道科学大学は2024年度に創立100周年を迎えます。記念すべき節目の年として、北海道科学大学に関わるすべての皆様と様々な周年事業を展開します。



法人創立100周年記念事業

北海道自動車学校開校100周年記念式典 (新校舎お披露目式)

北海道自動車学校開校記念日の6月24日に中の島キャンパスで開校100周年記念式典を開催しました。新校舎のお披露目のほか、街歩き研究家の和田哲氏による特別講演会や、他の自動車学校関係者や町内会など、地域住民の皆様との懇親会を実施しました。



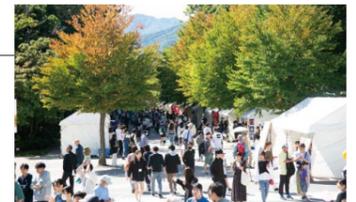
100周年記念セレモニー

8月10日に札幌文化芸術劇場hitaruで100周年記念セレモニーを開催し、本法人に関わるすべての皆様と100周年をお祝いする一日とします。セレモニーは二部制で、第一部では本法人の歴史やブランドビジョンの振り返り、第二部は学生・生徒による華やかなパフォーマンスとネクストブランドビジョンの発表を行います。



100周年記念大学祭

9月21日、22日に第57回北海道科学大学大学祭「稲峰祭」を100周年記念特別バージョンで開催します。例年同様に学生や教職員などによる屋台や露店が多く立ち並びます。前田キャンパスで皆様と100周年をお祝いする賑やかな2日間となります。



100周年フィナーレ(HUSキャンパス・イルミネーション)

12月に100周年記念事業の締めくくりとして、HUSキャンパスイルミネーション2024にて100周年フィナーレを開催します。スタンドグラスアーティストがプロデュースする光のオブジェが織りなす鮮やかな彩りの中、大学・地域・教職員・学生が一体となり、次の100年に向かって皆様とともに未来をつなぐ企画とします。



100周年記念事業の一環として四季のイベントを開催し、学生・生徒、教職員、地域住民の方々などに100周年を体感してもらう催し物を行っています。



法人創立100周年記念事業 寄付金のご協力をお願い

本法人が今後目指す「次の100年」を社会に発信するべく、多くの方の想いが反映されるよう諸事業の展開を計画しています。つきましては、諸事ご多端の折、誠に恐縮に存じますが、寄付の趣旨にご賛同いただき、卒業生、保護者、地域社会の皆様からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募集期間	2021年6月1日～2025年3月31日
募集の対象	■個人の方「一般有志・卒業生・保護者・教職員」▶1口につき5千円 ■法人の方「企業・団体」▶1口につき5万円

寄付の詳細につきましては、法人創立100周年記念事業寄付金サイトにて、ご確認ください。

法人創立100周年記念事業寄付金サイト

<https://ed.hus.ac.jp/100th/donation/>



沿革 History

1924	自動車運転技能教授所 設立 ※本法人の創設	2002	北海道自動車短期大学 学科廃止 情報経営システム学科、電子機械工学科
1936	各種学校に組織変更認可	2003	北海道自動車短期大学 専攻設置 自動車工学専攻、車体工学専攻 北海道尚志学園高等学校 学科廃止 経営システム科、情報技術科
1951	財団法人北海道自動車学校 設立認可	2004	北海道薬科大学 学科設置 薬学部 医療薬学科(既存2学科を再編)
1953	学校法人自動車学園に組織変更認可 設置校/北海道自動車短期大学、北海道自動車学校 北海道自動車短期大学 開学 自動車工業科	2006	北海道薬科大学 学科設置 薬学科(6年制)
1955	北海道電波専門学校 開校	2008	北海道工業大学 学部学科改組 創生工学部 機械システム工学科、情報フロンティア工学科、 電気デジタルシステム工学科/空間創造学部 建築学科、 都市環境学科/医療工学部 医療福祉工学科/未来デザイン学部 メディアデザイン学科、人間社会学科
1956	北海道工業高等学校 開校 定時制/自動車科	2009	北海道総合電子専門学校 閉校
1957	北海道工業高等学校 通常課程設置 全日制/自動車科、工業経営科	2010	北海道薬科大学大学院 専攻設置 薬学研究科修士課程 薬科学専攻
1963	北海道自動車短期大学 学科設置 工業経営科、自動車工業科二部	2011	北海道薬科大学 学科廃止 薬学部 医療薬学科
1967	北海道工業大学 開学 工学部 機械工学科、経営工学科	2012	北海道薬科大学附属薬局(収益事業) 開設 北海道工業大学 学科設置 医療工学部 義肢装具学科 北海道工業大学大学院 専攻設置 工学研究科修士課程 電気電子工学専攻、情報工学専攻、医療工学専攻 北海道薬科大学大学院 専攻設置 薬学研究科修士課程 臨床薬学専攻
1968	北海道工業大学 学科設置 工学部 電気工学科	2014	学校法人北海道尚志学園 名称変更 学校法人北海道尚志学園を学校法人北海道科学大学へ 北海道工業大学、北海道自動車短期大学 名称変更 北海道工業大学を北海道科学大学へ 北海道自動車短期大学を北海道科学大学短期大学部へ 北海道科学大学 学部学科改組 工学部 機械工学科、情報工学科、電気電子工学科、 建築学科、都市環境学科/保健医療学部 看護学科、 理学療法学科、義肢装具学科、臨床工学科、 診療放射線学科/未来デザイン学部 メディアデザイン学科、 人間社会学科 北海道科学大学短期大学部 専攻廃止 自動車工学専攻
1972	北海道工業大学 学科設置 工学部 土木工学科、建築工学科	2015	北海道薬科大学及び北海道科学大学短期大学部が 前田キャンパスへ移転 北海道科学大学短期大学部 学科廃止 自動車工業科第二部
1973	北海道工業高等学校 学科設置 普通科	2016	北海道科学大学大学院 専攻設置 工学研究科修士後期課程 工学専攻(既存4専攻を再編) 北海道尚志学園高等学校 名称変更 北海道尚志学園高等学校を北海道科学大学高等学校へ
1974	北海道薬科大学 開学 薬学部 薬学科、生物薬学科	2017	北海道科学大学短期大学部 学科名称変更 自動車工業科第一部を自動車工学科へ 北海道科学大学高等学校 学科再編 普通科、工学科
1975	学校法人自動車学園 法人名称変更 学校法人自動車学園を学校法人北海道尚志学園へ	2018	北海道科学大学と北海道薬科大学を統合 北海道科学大学 学科廃止 空間創造学部 建築学科、都市環境学科 北海道科学大学に薬学部薬学科を設置 北海道科学大学大学院 課程及び専攻設置 薬学研究科修士課程 臨床薬学専攻 保健医療学研究科修士課程 看護学専攻、 リハビリテーション科学専攻、医療技術学専攻 北海道科学大学短期大学部 専攻廃止 車体工学専攻
1978	北海道薬科大学大学院 設置 薬学研究科修士課程 生物薬学専攻	2020	北海道科学大学大学院 専攻及び専攻科設置 保健医療学研究科修士後期課程 保健医療学専攻 専攻科 公衆衛生看護学専攻科
1979	北海道自動車短期大学 学科名称変更 自動車工業科を自動車工業科第一部へ、 自動車工業科二部を自動車工業科第二部へ	2021	北海道科学大学大学院 工学研究科修士課程医療工学専攻
1980	北海道薬科大学大学院 課程設置 薬学研究科修士課程(後期) 生物薬学専攻	2022	北海道科学大学短期大学部閉学 北海道科学大学高等学校 学科廃止 工学科
1985	北海道電波専門学校 設置者変更 (1978年専修学校認可)	2023	北海道科学大学高等学校が前田キャンパスへ移転
1986	北海道工業大学 学科設置 工学部 応用電子工学科	2024	法人創立100周年
1987	北海道電波専門学校 名称変更 北海道電波専門学校を北海道総合電子専門学校へ 北海道工業高等学校 学科設置 生産機械科、情報技術科		
1989	北海道自動車短期大学 学科名称変更 工業経営科を情報経営システム学科へ		
1990	北海道工業大学大学院 設置 工学研究科修士課程 電気工学専攻、 応用電子工学専攻、建築工学専攻		
1991	北海道総合電子専門学校 高等課程廃止 北海道工業高等学校 学科名称変更 生産機械科を電子機械科へ、 工業経営科を経営システム科へ		
1992	北海道工業大学大学院 課程及び専攻設置 工学研究科修士課程 機械システム工学専攻、 土木工学専攻/ 工学研究科修士後期課程 電気工学専攻、 応用電子工学専攻 北海道自動車短期大学 学科設置 電子機械工学科		
1994	北海道工業大学大学院 専攻設置 工学研究科修士後期課程 機械システム工学専攻、建設工学専攻		
2000	北海道薬科大学大学院 専攻設置 薬学研究科修士課程 臨床薬学専攻		
2001	北海道工業高等学校 名称変更 北海道工業高等学校を北海道尚志学園高等学校へ 北海道工業大学 学科再編 工学部 電気電子工学科、情報ネットワーク工学科、 情報デザイン学科、福祉生体工学科、環境デザイン学科、 機械システム工学科、社会基盤工学科、建築学科		

建学の精神・基本理念、教育方針 School Philosophy

北海道科学大学

▶ 建学の精神・基本理念

建学の精神
 本学は、「科学的市民」の育成を教育理念の中心に据えて、知識基盤社会を担う市民としての汎用的技能・能力と時代の要請に即した専門の学術を教授・研究し、高い応用能力と健全な心身を備え、科学的思考によって専門職としての役割を主体的に果たせる人材を育成することにより、地域社会の活性化に寄与することを使命とする。

基本理念
 ▶ 「科学的市民」の育成
 ▶ 時代の要請に即したプロフェッショナル教育
 ▶ 地域社会への貢献

▶ 教育方針

教育目的
 時代の要請に即した専門領域で輝きながら、北海道及びわが国の活性化を現実的に支え得る21世紀型市民を育成する。

教育指針
 学科ごとのきめ細やかなカリキュラム、教育指導により、
 ▶ 専門領域の基礎知識群とそれらの自然や社会、歴史との繋がりを含めた知識の枠組みを獲得する、
 ▶ 自ら学習する能力(学習力)を身につける、
 ▶ 社会における自らの役割を認識し、倫理観を醸成する、
 ▶ 自らの専門能力を高め、あるいは広げる、
 ▶ 専門能力を社会に役立てるために必要な関連知識とスキルを獲得する、
 ことを支援する。加えて、組織的な教育効果の検証と、カリキュラムの改善を続け教育目的を達成する。

教育の特色
【学生の立場に基づく教育】
 [教育システム]
 ▶ 専門領域ごとに最適設計された教育・学習プログラム
 ▶ 入学生の適性に応じたきめ細やかな教育・学習システム
 ▶ 少人数グループによる実験・演習を重視する教育プログラム
 [教育環境]
 ▶ 学習力醸成に役立つ整備された自習環境
 ▶ 開放的で居心地の良いグループ学習環境
 ▶ 豊富な研究設備に恵まれた卒業研究環境
【情報化社会に調和するプロフェッショナル教育】
 [教育システム]
 ▶ 技術者として重要な倫理観を育む教育プログラム
 ▶ 協働のためのコミュニケーション能力を育む言語教育プログラム
 [教育環境]
 ▶ 全学生ノートPC所有
 ▶ 充実した学内イントラネット環境
 ▶ ユビキタスなe-Learning環境

北海道科学大学高等学校

▶ 校訓

至誠一貫
 ▶ 最後まで誠意を貫き通すこと、きわめて誠実なこと。一つの方針・方法・態度で、始めから終わりまで貫き通すこと。真心をもって何事にも立ち向かうこと。
 ▶ 何事にも真剣に取り組み、目標に向かって努力する態度を養うことを本校教育の柱とする。

学校教育目標
 個性や才能を最大限に伸ばし、高い志のもと様々な場面で科学的な見地に立ち、地域や国際社会の未来を切り拓く人を育てる。
 (1) 自らの在り方や生き方を探求し、自己実現を目指して主体的に学ぶ人を育てる。
 (2) 豊かな心と健やかな体をもち、自他の生命を尊重する心身ともに健康な人を育てる。
 (3) 社会の一員としての自覚を深め、持続可能な社会の発展に積極的に貢献する人を育てる。

スクール・ミッション(めざす学校像)
 (1) 生徒の主体性を育て、挑戦する場を与え続ける学校
 (2) 高い進路意識と学ぶ意欲を持った多様な生徒が集う学校
 (3) 生涯にわたって必要とされる学びを伝え、地域社会に貢献しようとする人材を育てる学校

北海道自動車学校

▶ 基本理念

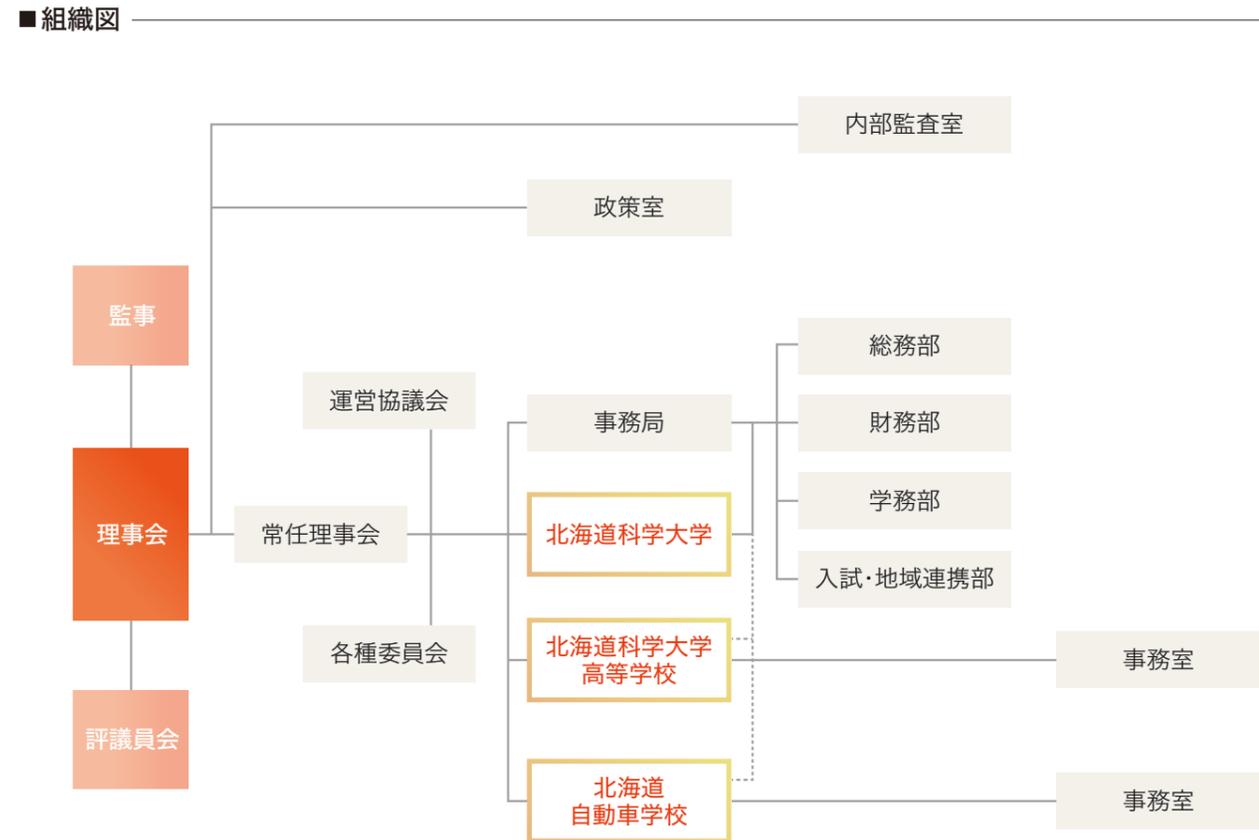
自動車の運転免許取得に必要な知識と技術を教習して優良な運転者を育成する。

▶ 教育方針

運転免許の取得を通じ、「人間性」、「社会性」を実践で育む。交通事故のない車社会を目指し、安全な運転行動のとれるドライバーを育成する。



組織図・設置校一覧 (2024年5月1日現在) Organization Chart



学校法人 北海道科学大学
〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号

■設置校一覧

- 北海道科学大学 (〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号)
- 北海道科学大学高等学校 (〒006-0817 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4番2号)
- 北海道自動車学校 (〒062-0922 北海道札幌市豊平区中の島2条6丁目2番4号)

役員・評議員・教職員数 Number of Board Members, Council Members, Teachers and Staff

■役員 (2024年5月29日現在)

- 理事長 苫米地 司
- 専務理事 加藤 智彦 専務理事(総括、人事、広報担当)
- 常務理事 渡辺 正大 常務理事(財務、設置校経営担当)
- 理事 川上 敬 北海道科学大学 学長
- 橋本 達也 北海道科学大学高等学校 校長
- 稲垣 秀昭 北海道自動車学校 校長
- 石田 眞二 北海道科学大学 教授、副学長、改組準備室長、政策室長
- 蔵野 雅行 事務局 法人事務局長、財務部長
- 木原 雅人 事務局 大学事務局長、学務部長
- 理事(非常勤) 小林 敏道
- 田中 正人
- 檜森 聖一
- 星野 尚夫
- 成田 吉明
- 監事 中村 栄作
- 監事(非常勤) 宇佐美暢子

■評議員 (2024年5月29日現在)

- 常勤 真田 博文 北海道科学大学 教授、副学長、改組準備室長
- 櫻井 秀彦 北海道科学大学 教授、副学長
- 見山 克己 北海道科学大学 教授、工学部長
- 戸田 貴大 北海道科学大学 教授、薬学部長
- 宮坂 智哉 北海道科学大学 教授、保健医療学部長
- 梶谷 崇 北海道科学大学 教授、未来デザイン学部長
- 北條 誠 事務局 総務部長、100周年記念誌編集室長
- 森田 徳康 事務局 入試・地域連携部長、100周年記念誌編集室次長
- 佐々木卓也 事務局 人事企画室長、総務部次長(人事、校友担当)
- 非常勤 武井 久
- 高橋 克朋
- 竹内 伸仁
- 木村 信広
- 工藤 昌史
- 菊地 秀一
- 有澤 賢二

■教職員数 (2024年5月1日現在)

所 属	役員	教員	職員 (契約・技師含む)	非常勤教員	臨時職員	計
学校法人 北海道科学大学	4	-	130	-	1	561
北海道科学大学	-	233	-	193	-	426
北海道科学大学高等学校	-	52	8	18	-	78
北海道自動車学校	-	27	7	-	19	53
計	4	312	145	211	20	692

キャンパスマップ&アクセス Campus Map & Access

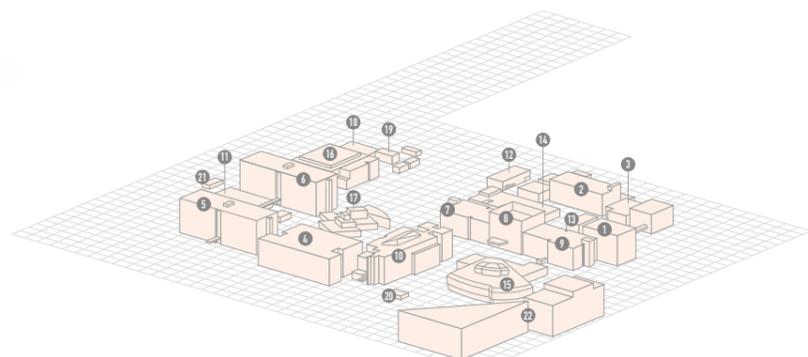
前田キャンパス

北海道科学大学

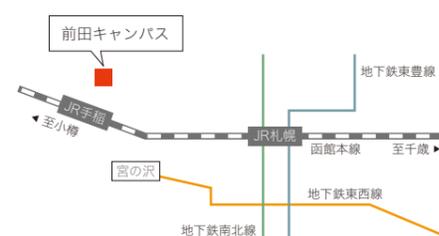
1 4号館	2,506㎡
2 7号館	3,722㎡
3 8号館	2,649㎡
4 講義棟(A棟)	12,805㎡
5 薬学部棟(B棟)	11,416㎡
6 保健医療学部棟(C棟)	11,300㎡
7 工学部西棟(D棟)	5,942㎡
8 中央棟(E棟)	4,569㎡
9 工学部東棟(F棟)	5,790㎡
10 講義棟(G棟)	9,288㎡
11 保健医療学部別棟(R1棟)	944㎡
12 共同実験棟(R2棟)	665㎡
13 工学部実験棟(R3棟)	740㎡
14 工学部実験棟(R4棟)	2,167㎡
15 100周年記念会館(図書館)	5,371㎡
16 体育館	5,720㎡
17 HITプラザ(食堂棟)	2,156㎡
18 クラブハウスA	438㎡
19 クラブハウスB	393㎡
20 バス待合所	27㎡
21 バス待合所(西)	10㎡

北海道科学大学高等学校

22 校舎	13,117㎡
-------	---------



前田キャンパスへの交通アクセス



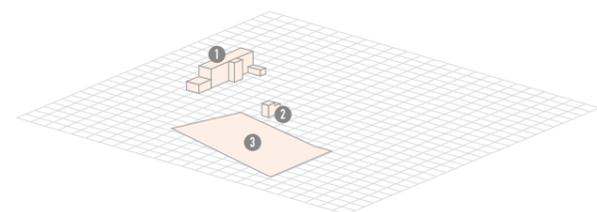
- ▶▶ 札幌近郊からJR「手稲」駅までの所要時間(快速)
 - JR「札幌」駅～約10分
 - JR「小樽」駅～約22分
 - JR「新千歳空港」駅～約50分
- ▶▶ JR
 - JR「手稲」駅からJRバスで約9分(バス停「北海道科学大学」下車)
- ▶▶ 地下鉄
 - 地下鉄東西線「宮の沢」駅からJRバスで約25分(バス停「北海道科学大学」下車)
- ▶▶ 徒歩
 - JR「手稲」駅から約25分



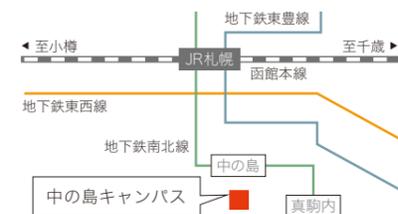
中の島キャンパス

北海道自動車学校

1 校舎	2,091㎡
2 生徒待合室	195㎡
3 運転練習コース	12,334㎡



中の島キャンパスへの交通アクセス



- ▶▶ 地下鉄
 - 地下鉄南北線「中の島」駅からじょうてつバスで約2分(バス停「中の島1条6丁目」下車、徒歩約1分)
 - 地下鉄南北線「中の島」駅から徒歩約13分
 - 地下鉄南北線「南平岸」駅から徒歩約13分
- ▶▶ 市電
 - 札幌市電(環状線)「幌南小学校前」駅下車、徒歩約10分

ニセコ山荘

ニセコ山荘	337㎡
-------	------

学生に関する情報 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数(2024年5月1日現在) Student Information

(単位=人)

■北海道科学大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数						
					1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
工学部	機械工学科	92	368	82	85	101	75	96	—	—	357
	情報工学科	90	360	110	111	85	90	83	—	—	369
	電気電子工学科	80	320	86	88	70	108	92	—	—	358
	建築学科	80	320	85	85	82	99	71	—	—	337
	都市環境学科	50	200	38	40	49	43	37	—	—	169
	計	392	1,568	401	409	387	415	379	—	—	1,590
薬学部	薬学科	180	1,080	194	204	211	176	147	165	228	1,131
保健医療学部	看護学科	90	360	97	101	95	92	91	—	—	379
	理学療法学科	50	200	53	56	52	53	47	—	—	208
	義肢装具学科	30	120	17	18	42	19	28	—	—	107
	臨床工学科	70	280	54	56	70	79	66	—	—	271
	診療放射線学科	50	200	61	64	61	55	45	—	—	225
	計	290	1,160	282	295	320	298	277	—	—	1,190
未来デザイン学部	メディアデザイン学科	80	320	77	80	74	122	85	—	—	361
	人間社会学科	50	200	49	53	45	56	50	—	—	204
	計	130	520	126	133	119	178	135	—	—	565
計					1,041	1,037	1,067	938	165	228	4,476

研究科名	課程・専攻名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数					
					1年	2年	3年	4年	計	
工学研究科	修士課程	機械工学専攻	5	10	3	3	1	—	—	4
		電気電子工学専攻	4	8	7	7	4	—	—	11
		情報工学専攻	4	8	9	9	2	—	—	11
		建築学専攻	4	8	3	3	5	—	—	8
		都市環境学専攻	4	8	0	0	0	—	—	0
	博士後期課程	工学専攻	6	18	1	1	1	3	—	5
薬学研究科	博士課程	臨床薬学専攻	3	12	1	1	6	2	2	11
保健医療学研究科	修士課程	看護学専攻	5	10	3	3	10	—	—	13
		リハビリテーション科学専攻	4	8	3	3	2	—	—	5
		医療技術学専攻	4	8	5	5	7	—	—	12
	博士後期課程	保健医療学専攻	3	9	4	4	2	5	—	11
計					39	40	10	2	91	

専攻科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数	
				1年	計
公衆衛生看護学専攻科	8	8	9	9	9
計				9	9

■北海道科学大学高等学校

(単位=人)

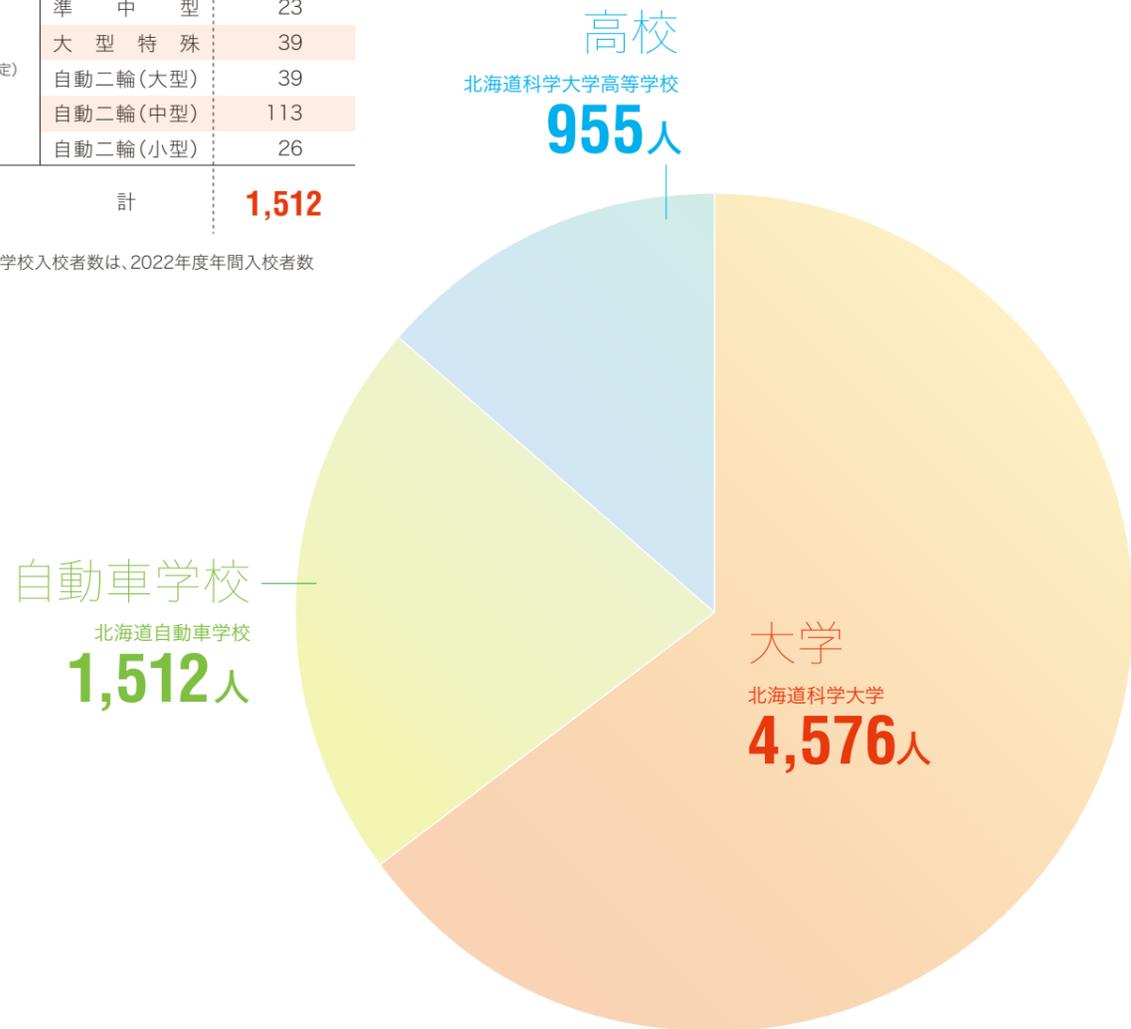
学 科 名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数			計
				1年	2年	3年	
普 通 科	300	900	302	302	291	362	955

■北海道自動車学校

(単位=人)

科 名	種 別	入校者数
本 科 (公安委員会指定)	普 通 一 種	1,272
	準 中 型	23
	大 型 特 殊	39
	自動二輪(大型)	39
	自動二輪(中型)	113
	自動二輪(小型)	26
計		1,512

※北海道自動車学校入校者数は、2022年度年間入校者数



第2期中期事業計画

法人創立100周年である2024年度に向けたブランドビジョンを実現するため、2020年度から5か年にわたる第2期中期事業計画を策定しました。

5つの重点目標



■2024年度の事業推進体制



100周年ブランドビジョン

2024年までに、基盤能力と専門性を併せ持つ人材を育成し、地域と共に発展・成長する北海道No.1の実学系総合大学を実現します。

重点改革事項

- 北海道科学大学高等学校の前田キャンパス移転による高大一体教育の実現
- Society5.0に対応したデータサイエンス教育の全学展開
- 100周年記念会館による「学ぶと人生をつなぐ」能動的学習の推進



2024年度 事業計画書はこちらをご覧ください



2023年度事業報告

2023年度は第2期中期事業計画の5つの重点目標に基づき、計48の事業を実施しました。以下では主な事業を報告します。すべての事業報告の詳細につきましては、2023年度事業報告書に記載していますので、右記のQRコードからご確認ください。



2023年度 事業報告書はこちらをご覧ください

5つの重点目標

I

教育の質向上

重点目標

建学の精神に謳われる「科学的市民の育成」により、複雑多様化、グローバル化が進展し、予測不可能な時代にあっても主体的に社会を支える人材を輩出する。このため、「プロフェッショナル教育」の理念に基づいて、学修者本位の教育への転換を推進する。高等学校においては、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力など」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性など」の涵養の実現により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とする。

授業内外での学習支援、修学支援の充実(北海道科学大学)

2023年度はSA活動により、GPA-S1.00未満の比率が工学部 7.2%(7.3%)、保健医療学部 2.3%(2.5%)、未来デザイン学部 3.0%(6.5%)となり、低GPA学生を減少させることができました。(括弧内は前年度)

「成績上位者向けのCAP緩和」は24名が制度を活用し、その後GPA-Tが3.50を下回った者は5名のみとなりました(平均3.61)。制度活用後もGPAを伸ばす学生もおり、優秀な学生が活用していることがわかりました。また、リメディアル講座のSA募集では、リーフレットやフォームを整備し、採用予定数以上の応募者を集めることができました。

ほか19事業



5つの重点目標

II

研究活動活性化

重点目標

本学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図る。

HUS学術研究交流会の開催による共同研究の促進(北海道科学大学)

2023年度のHUS学術研究交流会は、隔月で全6回(5月、7月、9月、11月、1月、3月)開催しました。1回当たりの参加者は70名程度で推移しており、第3回と第6回の交流会は対面で開催し、交流会後に意見交換会も実施しました。意見交換会では、軽食をとりながら学内研究者の研究紹介や意見交換を行いました。また、マッチングについてのアンケートを行い、マッチングに「繋がった」が2件、「繋がりそう」が3件ありました。

ほか4事業



5つの重点目標

III

社会貢献

重点目標

地域社会の核として、産業界や地方公共団体とともに、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指す。

地域医療への貢献を目指した道内地方都市における実務実習の推進(北海道科学大学)

根室、檜山、後志の3地区において、14名の学生が実務実習を行いました。さらに地域を知るプログラムとして、「根室高校生との座談会」、「科学と友達になろう in 根室 イベント開催」、「小学生に対する認知症サポーター養成講座の支援」、「中学生の医療体験の支援」などに関わり、地元住民との交流を図りました。アンケートでは、前年度と同様、参加学生における地域医療に対するイメージは良い方向に変化し、半数の学生は将来的な地域医療への従事の意向が強くなっており、本プログラムの目的は達成していると考えています。

ほか6事業



5つの重点目標

IV

経営強化

重点目標

キャンパス再整備計画(第1期)の成果として北海道薬科大学・北海道科学大学短期大学部の前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通の教育研究組織、事務部門の簡素・合理化など)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をI.~III.の重点領域に再配分及び集中的に投資する。

高大一体となった広報活動の充実(北海道科学大学、北海道科学大学高等学校)

道内テレビ局と協力してミニ番組を制作しました。この番組は、3月に収録を行い、橋本校長のインタビューや同日にLINKSホールで開催されたコネクツェス取材し、学生や生徒からのコメントも収録されており、多様な視点からイベントの魅力を伝える内容となっています。

番組動画は、中学校向け相談会での放映など、二次利用も可能であるため、高大一体改革のPR動画としても有効活用します。また、ニュースサイトにこの番組の記事が掲載されることで、多くの人々への広報効果が期待されます。これにより、広範囲にわたる視聴者に情報を届けることができ、学校の取組やイベントの認知度向上に繋がっていきます。

ほか10事業



5つの重点目標

V

ブランド推進

重点目標

信条として掲げた「+Professional」「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動並びに地域貢献活動などの個別の取組を一貫したストーリーとして、以下のコンセプトに位置づけ、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図る。

- 地域活性化に向けた取組
- 北海道の地域課題に対応、地域資源を生かした取組
- 本法人の歴史(レガシー)の創出・承継に向けた取組

HUSスタンダード広報によるブランディング推進(北海道科学大学)

HUSスタンダードの広報ビジュアルを定め、様々な手段を用いて広報を行いました。北海道新聞や地下歩行空間での広告展開を行い、社会に向けたPRを実現しました。オープンキャンパスでは、特設パネルの展示を通して高校生及び保護者など、幅広いステークホルダーに対してPRを実施しました。

9月からは大学ホームページに特設ページを設置することでウェブ上での情報発信を強化しました。この特設ページでは、+Professional教育とともにHUSスタンダードについても紹介しています。また、合格者向けサイト「Come!かむ!HUS!」においてもHUSスタンダードに関する情報を紹介し、入学予定者に対して内容を伝えています。

ほか4事業

2024年4月 **HUSスタンダード** はじまる。

私、うちの学生が社会に出るとき、この3つを持って欲しいと思う。愛。人や地域を愛し、そのために力を注げる心を持つこと。勇気。困難な課題でも常に挑戦する気構えを持つこと。3つに、今の時代を生き抜くための、人としての基礎的な力、それがHUSスタンダードだ。

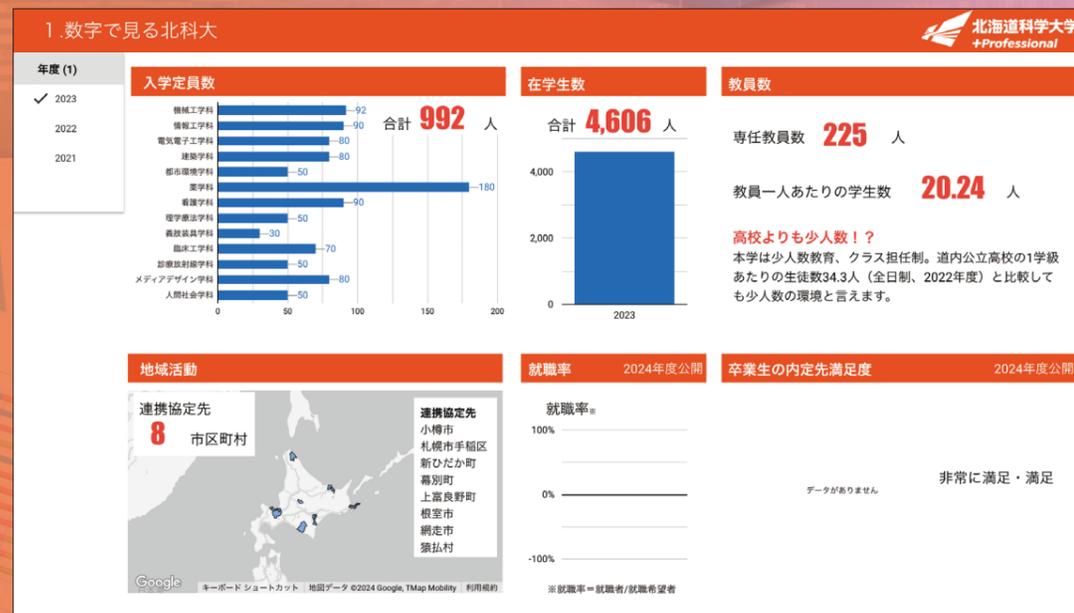
1・2年次に、コミュニケーションや課題発見解決力に加え、データサイエンスや多様な視点から考える力を養う。いわば、これからの時代を生き抜くための標準装備だ。私たち北海道科学大学は、真面目にそんなことを考えています。

愛、
勇気、
HUSスタンダード。

北海道科学大学
+Professional

北海道科学大学ファクトブック

北海道科学大学ファクトブックは、
本法人のIR(Institutional Research)活動を
推進することを目的に作られた、
本法人や設置校に関するファクト(事実)を
客観的に整理したデータベースです。
BIツールを活用して、作成しております。



こちらよりご覧ください



自己点検・評価 Operation-management · Self-inspection

北海道科学大学

▶▶ 認証評価の受審について

2021年度に文部科学大臣が認証する公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価(第三者評価)を受け、2022年3月16日付で、「同機構が定める大学評価基準に適合している」と認定されました。

北海道科学大学高等学校

本校に組織されている部・学科・学年ごとに、①反省と改善を要する点、②成果が得られた点、③次年度への提言、④その他特記すべき事項について、自己点検・評価を行い職員会議で公表するとともに、ほかの教職員からの意見を聴取しました。

北海道自動車学校

2023年度について、以下の項目を自己点検項目として実施しました。

【教習運営重点事項の推進状況】

- ①管理者等による的確な業務管理の徹底
- ②教習及び検定環境の維持改善と社会情勢に応じた対応
- ③教習生の能力、性格等に応じた効果的な教習と的確な検定
- ④初心運転者教育機関としての交通情勢に応じた取組
- ⑤地域の交通安全センターとしての積極的な取組

2023年9月13日に公安委員会の総合検査を受け、以下の事項が適性(良好)と認められました。

- ①指定基準は、適正に維持されている。
- ②同乗指導が活発に実施されている。

北海道科学大学高等学校

公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、ブランドイメージを向上させるために、以下の項目を本校ホームページ等で公表しました。

- ①教育理念・校訓・教育目標に関すること
- ②沿革に関すること
- ③施設・設備等教育環境に関すること
- ④学科・コースに関すること
- ⑤入試情報に関すること
- ⑥進路データに関すること
- ⑦授業内容並びに学校生活全般に関すること
- ⑧入学金、授業料その他の本校が徴収する費用に関すること
- ⑨特待生・奨学生制度に関すること

北海道自動車学校

自己点検・評価報告書については、一般には非公開とされていますが、北海道公安委員会の総合検査時には、一部説明資料として公開しています。また、事業報告については、法人のホームページに情報を公開しています。

情報公開 Information Disclosure

北海道科学大学

大学等が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させるために、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令(平成22年文部科学省令第15号)に基づく項目を含めた次の項目を当該大学のホームページに掲載しました。

- ①大学の教育研究上の目的に関すること
- ②教育研究上の基本組織に関すること
- ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ④入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- ⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ⑧授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること
- ⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- ⑩国際交流・社会貢献等に関すること
- ⑪薬学部に関すること
- ⑫財務及び経営に関すること
- ⑬教員の養成の状況に関すること

施設整備 Facility Maintenance

学校法人北海道科学大学

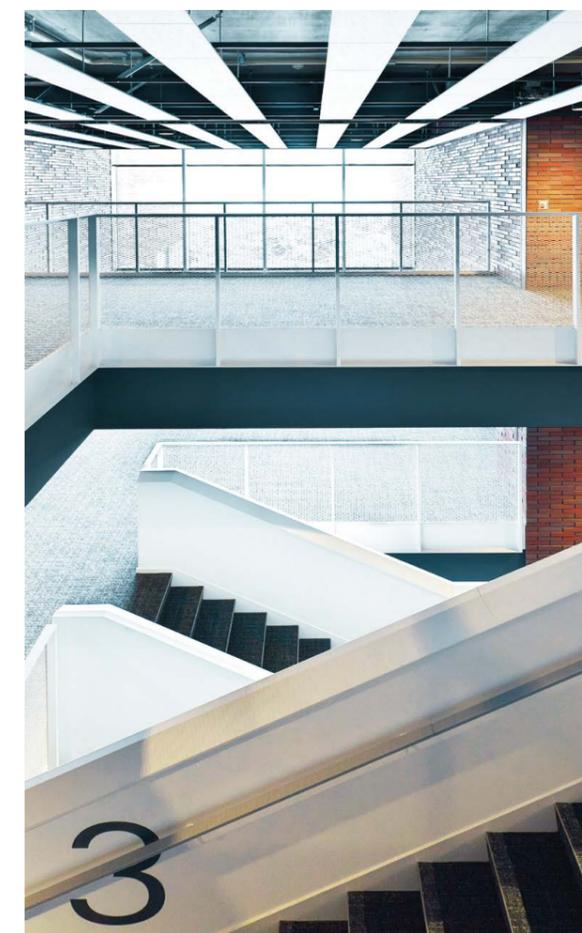
- ▶▶ 中の島キャンパス 北海道科学大学高等学校校舎解体(2024年1月完了)
北海道科学大学高等学校旧校舎の解体

北海道科学大学

- ▶▶ 桜新植工事(2023年9月完了)
2023年度13本の植樹を行い、当初計画の100本を達成

北海道科学大学高等学校

- ▶▶ テニスコート照明(2023年9月完了)
600WのLED照明を4台設置



設備整備 Equipment Maintenance

教育研究用機器備品

各設置校における教育研究充実のため、機器の更新並びに機器備品を購入しました。

購入数量	455点
------	------

購入品目のうち、主なものは以下のとおりです。

北海道科学大学

- ①X線撮影ポジショニングドール 一式
X線、CT撮影におけるランドマークを触知しての
ポジショニングトレーニング用シミュレーター
- ②顕微鏡 ほか 一式
HDMIデジタルマイクロスコープ、卓上水質計

北海道科学大学高等学校

- 前田キャンパス仕器 一式
掲示板

管理用機器備品

各設置校、法人の機器の更新並びに管理用備品を購入しました。

購入数量	29点
------	-----

図書等

各設置校の図書等を下記のとおり購入しました。

	北海道科学大学	北海道科学大学 高等学校
図書	1,126冊	224冊
学術雑誌	100種	—
電子ジャーナル	5,746種	—
データベース	11種	—
視聴覚関係	—	—

車両

<北海道自動車学校> 教習用大型自動二輪 1台

ソフトウェア

購入数量	2点
------	----

<学校法人北海道科学大学> 予算執行管理システム
<北海道科学大学> 科研費報告書作成システム



2023年度 財務概要

本法人の経営状況について分かりやすく解説し、
本法人の運営・活動内容について財務の観点から、広くご理解いただきたいと考えております。
今後も経営基盤の強化と安定を図りつつ、社会的責任と使命を果たして参ります。

4 CATEGORIES



学校法人とは

学校法人は、学校教育法及び私立学校法の定めるところにより、私立学校の設置を目的に設立された法人です。独自の「建学の精神」や「教育研究の理念・目標」に基づき教育研究活動を行うことを目的としており、極めて高い「公共性」と「自主性」を兼ね備えた機関です。

また私立学校振興助成法により、国等から補助金の交付を受けている学校法人は、文部科学大臣の定める「学校法人会計基準」に従い財務計算に関する書類を作成することが義務づけられています。



学校法人会計基準とは

私立学校の目的である教育研究活動を円滑に遂行するためには、財政の安定と持続性が求められます。

そのような私立学校の特性を踏まえ、私学助成を受ける学校法人が適正な会計処理を行うための統一的な会計処理基準として制定されたのが、「学校法人会計基準」です。



学校法人会計と企業会計の違い

学校法人の事業は非営利事業であり、その高い公共性から財政の安定と持続性が求められます。

企業会計の目的が、営利目的の事業活動の成果と財政状態を利害関係者に開示することにあるのに対し、学校法人会計は、今後の活動を継続的かつ安定的に遂行するため、収支の均衡の状況と財政の状態を正確に捉えることを目的としています。



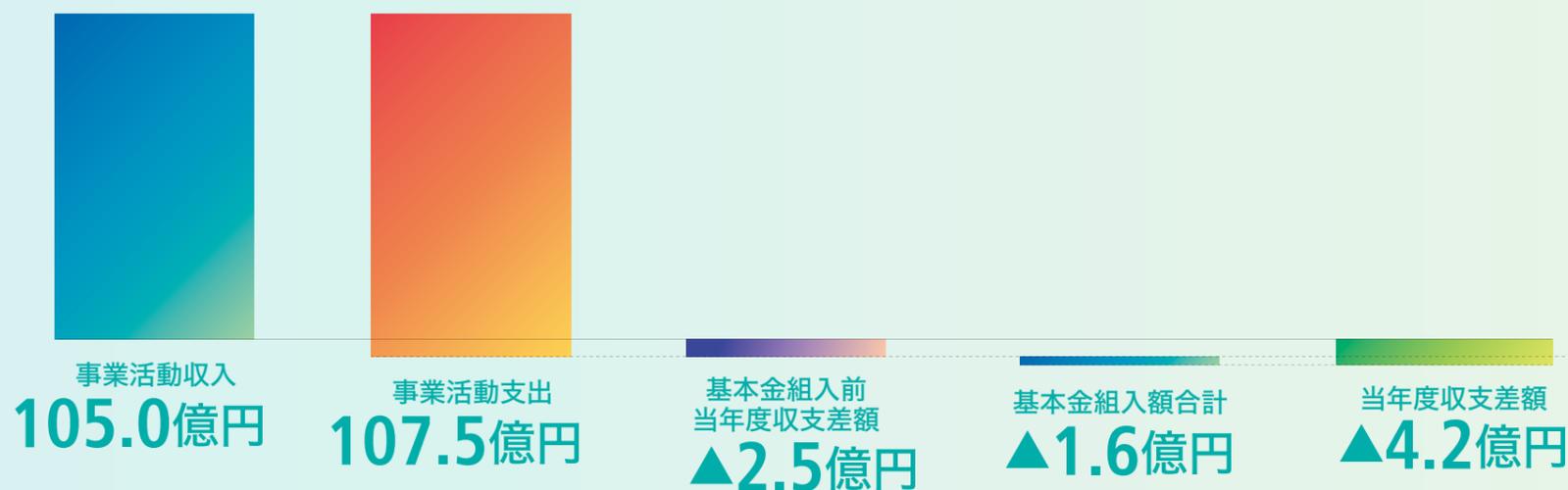
I

事業活動収支について

事業活動収支計算書とは

学校法人の1年間の、①事業活動の収入と支出の内容、②財政の収支の均衡状態を明らかにして経営状態を表すものであり、企業会計の「損益計算書」に相当します。
事業活動収支のバランスは、永続的な学校法人の運営のための重要な要件となります。

決算の概要



今年度決算の特徴

高校の前田キャンパス移転に伴う駒岡グラウンド、中の島運動場、中の島テニスコートの土地売却により、事業活動収入で資産売却差額を9億5,400万円計上する一方、支出では高校、旧短大部校舎の解体に伴う資産処分差額約9億6,700万円を計上しています。また、これら校舎解体費用の計上により管理経費が増加しました。

主な増減要因(対前年度)

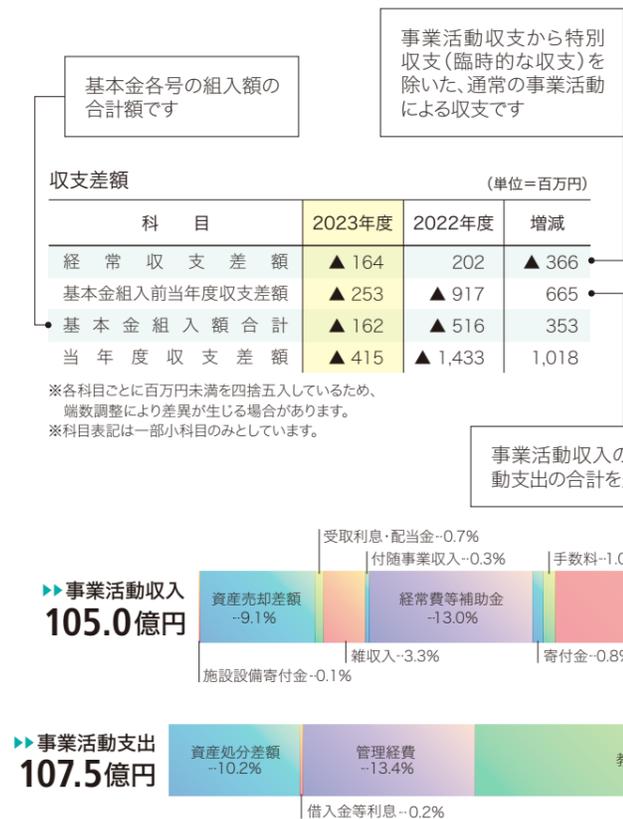
- ▶ 定員管理の適正化による学生生徒等納付金の減少
- ▶ 定員管理の適正化による補助金の増額
- ▶ 大学・高専成長分野転換支援基金の採択及び改革総合支援事業タイプ1「特色ある教育の展開」の継続した採択による補助金の増額
- ▶ 中の島キャンパス旧校舎解体による管理経費(修繕費)の増加

事業活動収支の内訳

事業活動収入	事業活動収入 (単位=百万円)				事業活動支出	事業活動支出 (単位=百万円)			
	科目	2023年度	2022年度	増減		科目	2023年度	2022年度	増減
設置校の大学、短大、高校、自動車学校の学生・生徒から納付された学費です	学生生徒等納付金	7,495	7,652	▲156	人件費	4,445	4,500	▲55	
入学検定料や在学証明書等の発行手数料等の収入です	手数料	103	110	▲6	教育研究経費	3,748	3,903	▲155	
施設設備の拡充のためのものを除きます	寄付金	82	61	21	(うち減価償却額)	(1,347)	(1,317)	(30)	
	経常費等補助金	1,363	1,217	146	管理経費	1,440	822	618	
	付随事業収入	27	25	2	(うち減価償却額)	(237)	(160)	(77)	
	雑収入	347	312	34	教育活動支出計	9,633	9,225	408	
教育・研究活動による収支	教育活動収入計	9,416	9,376	41	借入金等利息	18	18	0	
	受取利息・配当金	71	70	1	その他の教育活動外支出	0	0	0	
	収益事業収入	0	0	0	教育活動外支出計	18	18	0	
財務活動による収支	教育活動外収入計	71	70	1	経常支出	9,651	9,243	408	
	経常収入	9,487	9,446	41	資産処分差額	1,099	1,215	▲115	
	資産売却差額	955	0	955	その他の特別支出	0	0	0	
	施設設備寄付金	12	31	▲19	特別支出計	1,099	1,215	▲115	
	現物寄付	43	32	10	事業活動収入計	10,497	9,541	957	
	施設設備補助金	0	31	▲31	事業活動支出計	10,750	10,458	292	
臨時的な収支	過年度修正額	0	0	0					
	特別収入計	1,010	95	915					

CHECK / 基本金組入額とは

学校を運営していくために必要な資産のうち、継続的に保持しなければならない資産を事業活動収入から組み入れるものです。例えば第1号基本金であれば、固定資産取得時に同額を「基本金組入額」として事業活動収支にマイナス計上します。基本金組み入れ後の収支(当年度収支差額)が長期的にプラスになるよう運営することができれば、資産の更新・拡充のための資金が留保される仕組みです。財政の安定と永続性が求められる学校法人会計特有の仕組みです。



事業活動収支の推移

▶▶ 収入について

薬学部の入学定員減や、短大部の学生募集停止に伴い学生生徒等納付金は減少傾向にありましたが、2023年度以降はこれらの影響がなくなります。引き続き学生・生徒募集に注力するとともに、補助金や寄付金等外部資金の獲得を強化し、収入の維持・増加を図って参ります。

▶▶ 支出について

キャンパス整備計画の実行に伴う建物の解体費用や資産処分差額が生じており、近年は大きく増減しています。

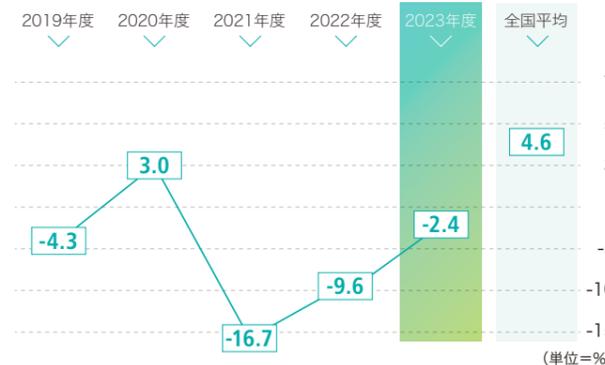


主な財務指標の推移

※全国平均は、日本私学振興・共済事業団調 医歯系法人を除く大学法人の2022年度の比率です。

分類① / 経営状況はどうか

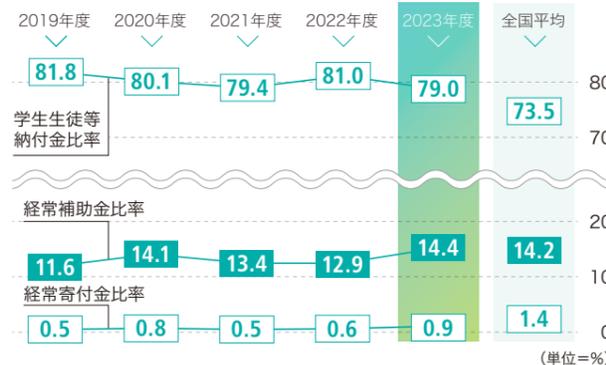
比率名	事業活動収支差額比率
算出方法	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$
比率の意味	この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕に繋がります。マイナス要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナスの場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことが出来ないことを示し、マイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫されます。
評価基準	高い方が良い



キャンパス整備計画の実施に伴う建物の解体費用や資産処分差額が生じており、近年は大きく増減しています。

分類② / 収入構成はどうか

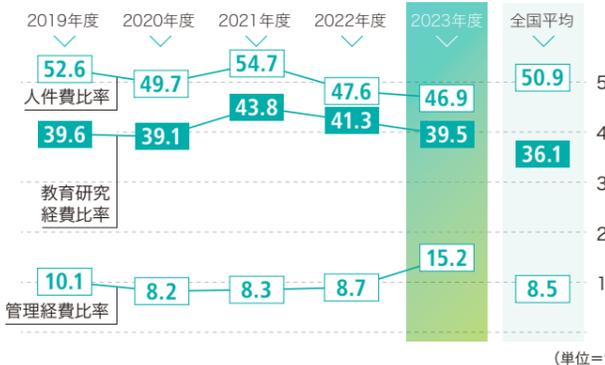
比率名	学生生徒等納付金比率	経常寄付金比率	経常補助金比率
算出方法	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	$\frac{\text{寄付金}}{\text{経常収入}}$	$\frac{\text{補助金}}{\text{経常収入}}$
比率の意味	学生生徒等納付金は事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、安定的に推移することが望ましいとされています。	寄付金は予定された収入ではなく、年度による増減幅が大きいため、一定水準の寄付金を継続して確保することが望ましいとされています。	補助金は学生生徒等納付金に次ぐ重要な収入源ですが、この比率が高い場合、国等の補助金政策の動向に影響を受けやすくなり、学校経営の柔軟性が損なわれる可能性があります。
評価基準	どちらともいえない	高い方が良い	高い方が良い



学生生徒等納付金比率は全国平均より高く、80%前後で推移しています。経常補助金比率は大型補助金の採択や経常費補助金における理工農系学部への加算等があり、全国平均を上回りました。寄付金を含む外部資金の獲得に向けた施策を実施しておりますが、経常寄付金比率は全国平均よりやや低い状況にあります。

分類③ / 支出構成は適切であるか

比率名	人件費比率	教育研究経費比率	管理経費比率
算出方法	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$
比率の意味	人件費は学校における最大の支出要素で、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となります。	教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率は収支均衡を失しない範囲内で高くなることを望ましいとされています。	教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないが、比率としては低い方が望ましいとされています。
評価基準	低い方が良い	高い方が良い	低い方が良い



人件費比率は、適正水準を維持しながら人件費抑制を進めており、全国平均を下回っています。教育研究経費比率は、全国平均より高い水準となっておりますが、質の高い教育研究環境の整備・充実を図るため、一定程度の水準を維持する方針としています。管理経費は、高校のキャンパス移転に伴う旧校舎の解体費用を計上したことにより大幅増となりましたが、これら一過性の要因を除いた比率は中期目標の9%を下回っており、全国平均と同水準を維持しています。



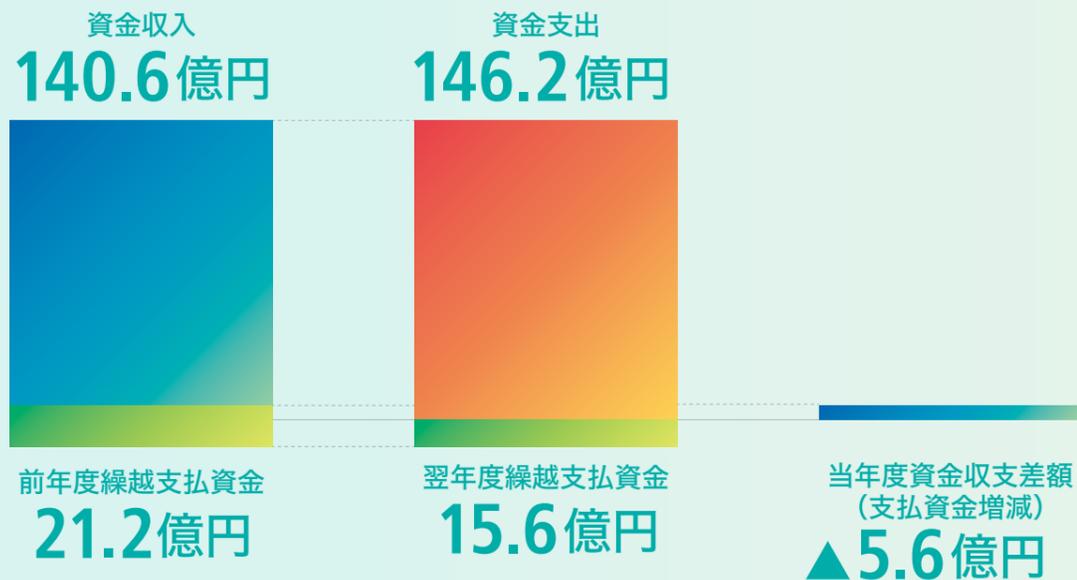
II

資金収支について

資金収支計算書とは

学校法人の1年間の、①教育研究活動に対応するすべての収入と支出の内容、②支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)の収入と支出のてん末を、明らかにするものです。企業会計の「キャッシュ・フロー計算書」に類似するものであり、資金(現預金)の動きを記録し、その残高状況を示します。

決算の概要



今年度決算の特徴

高校の前田キャンパス移転に伴う駒岡グラウンド、中の島運動場、中の島テニスコートの土地売却により、収入の部で資産売却収入を17億4,300万円計上する一方、支出では、大学の新キャンパス用地として取得した旧鉄北小学校跡地及び、自動車学校の校舎改修、教習コースの新設の工事費用等、施設関係支出で合計13億9,500万円を計上しました。また、中の島キャンパスの再整備に伴う校舎解体費用の計上により管理経費支出が増加しています。

主な増減要因(対前年度)

- ▶ 定員管理の適正化による学生生徒等納付金収入の減少
- ▶ 定員管理の適正化による補助金収入の増額
- ▶ 大学・高専成長分野転換支援基金の採択及び改革総合支援事業タイプ1「特色ある教育の展開」の継続した採択による補助金収入の増額
- ▶ 中の島キャンパス旧校舎解体による管理経費支出(修繕費支出)の増加
- ▶ 土地売却収入を特定資産に繰り入れたことによる資金運用支出の増加

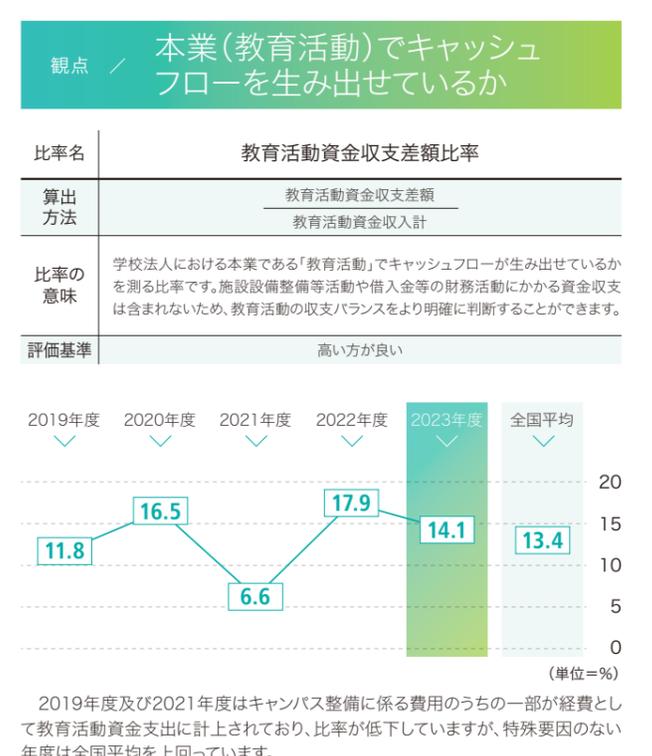
資金収支の内訳

資金収入		(単位=百万円)			資金支出		(単位=百万円)		
科目	2023年度	2022年度	増減	科目	2023年度	2022年度	増減		
学生生徒等納付金収入	7,495	7,652	▲156	人件費支出	4,455	4,537	▲81		
手数料収入	103	110	▲6	教育研究経費支出	2,401	2,586	▲185		
寄付金収入	94	92	2	管理経費支出	1,203	662	541		
補助金収入	1,363	1,248	115	借入金等利息支出	18	18	0		
資産売却収入	1,743	205	1,539	借入金等返済支出	456	417	39		
付随事業収入	27	25	2	施設関係支出	1,395	3,101	▲1,706		
収益事業収入	0	0	0	設備関係支出	102	451	▲349		
受取利息・配当金収入	71	70	1	資産運用支出(特定資産繰入支出)	4,503	1,701	2,802		
雑収入	342	312	31	その他の支出	272	233	38		
借入金等収入	0	785	▲785						
前受金収入	987	918	69						
その他の収入(特定資産取崩収入)	2,725	3,019	▲294						
その他の収入(上記を除く)	314	447	▲133						
資金収入調整勘定	▲1,206	▲1,327	121						
資金収入計	14,059	13,554	505	資金支出計	14,617	13,518	1,099		

収支差額		(単位=百万円)		
科目	2023年度	2022年度	増減	
資金収支差額	▲558	36	▲594	
翌年度繰越支払資金	1,562	2,120	▲558	

CHECK /
資金収入(支出)調整勘定とは
 前年度に収納した当年度入学生の入学金や学費、年度をまたいで支払う翌月払いの費用等は、当年度においては実際の入金や出金はありませんが、学校法人会計においては、当年度の諸活動のために収納又は支払いしたものと、当年度の収支に算入します。
 しかしこのままでは、資金収支計算書が実際の資金繰りと乖離してしまいます。これを一致させるため、当年度の収支に算入した前年度又は翌年度の入出金をマイナス調整する科目として「資金収入(支出)調整勘定」が設けられています。

主な財務指標の推移



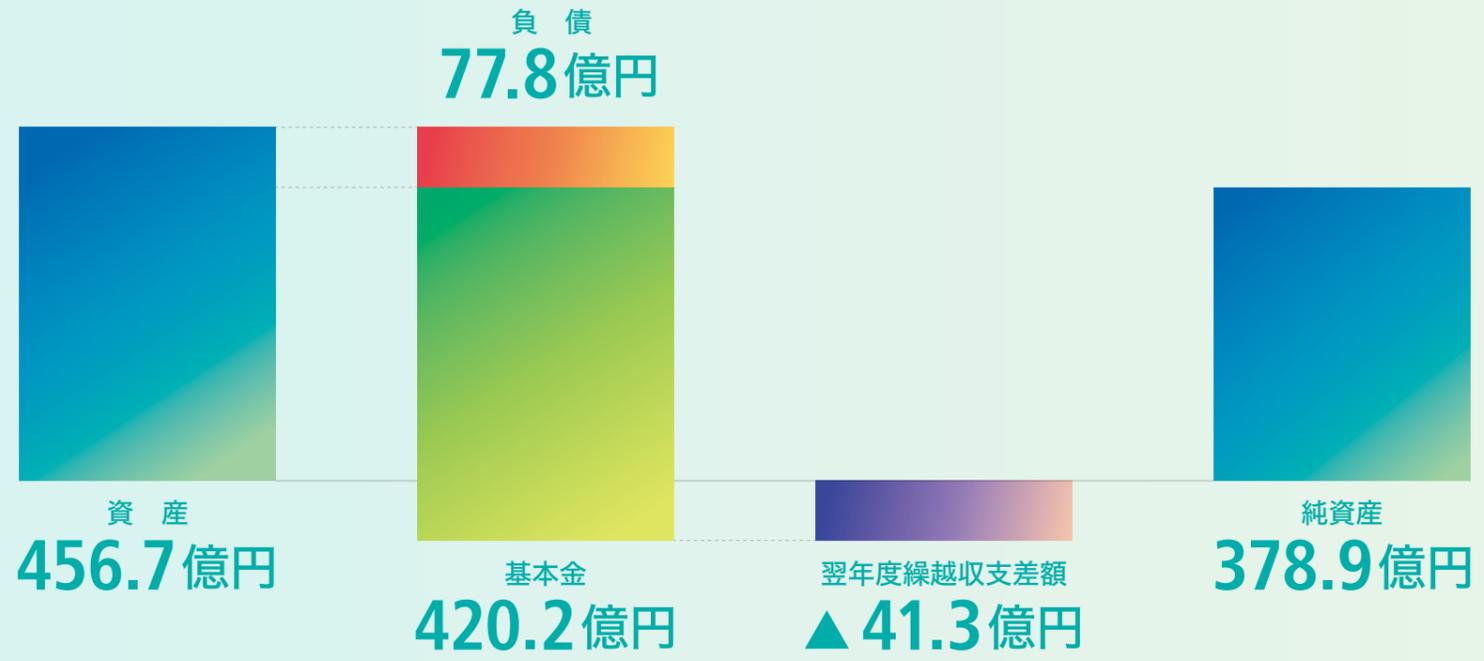
III

貸借対照表について

貸借対照表とは

年度末における資産、負債、純資産（基本金及び収支差額）を示し、財政状況の健全性や安全性を表します。

決算の概要



今年度決算の特徴

資産の部では、高校の前田キャンパス移転に伴い、駒岡グラウンド、中の島運動場及びテニスコートを売却した一方で、大学の新たなキャンパス開設に向けて旧鉄北小学校跡地を取得しました。また、中の島キャンパスの旧高校校舎等を解体したことにより建物が大幅に減少しています。

土地売却収入については、将来の施設設備整備に備え特定資産に繰り入れました。

純資産の部では、中の島キャンパスの高校校舎等解体により、第1号基本金を取り崩しています。

貸借対照表の内訳

資産		(単位=百万円)		
科目	2023年度末	2022年度末	増減	
土地	4,066	3,789	276	
建物	19,105	21,155	▲2,050	
構築物	1,037	1,161	▲124	
教育研究用機器備品	1,358	1,594	▲236	
管理用機器備品	77	85	▲8	
図書	1,458	1,455	2	
車両	1	2	▲1	
建設仮勘定	206	0	206	
第2号基本金引当特定資産	0	0	0	
第3号基本金引当特定資産	1,006	1,004	2	
退職給与引当特定資産	2,700	2,700	0	
施設設備引当特定資産	12,516	10,742	1,775	
+Professional奨学金基金引当特定資産	23	22	0	
その他の固定資産	169	171	▲1	
固定資産合計	43,721	43,880	▲159	
現金預金	1,562	2,120	▲558	
その他の流動資産	389	331	59	
流動資産合計	1,951	2,451	▲500	
資産合計	45,672	46,331	▲659	

建物を建設する際の着手金等、完成前にその建物建設のために支出した金額です

将来の施設設備の取得に充てるため、計画に基づき保有する資産です

奨学金基金等として継続的に保持し、運用するために保有する資産です

第2号基本金引当特定資産以外の、将来の施設設備の取得のために保有する資産です

負債		(単位=百万円)		
科目	2023年度末	2022年度末	増減	
長期借入金	3,286	3,742	▲456	
長期未払金	0	0	0	
退職給与引当金	2,717	2,732	▲15	
長期預り敷金・保証金	1	1	0	
固定負債合計	6,003	6,475	▲471	
短期借入金	456	456	0	
未払金	170	165	4	
前受金	988	918	70	
預り金	162	171	▲9	
流動負債合計	1,776	1,711	66	
負債合計	7,780	8,185	▲406	

※各科目ごとに百万円未満を四捨五入しているため、端数調整により差異が生じる場合があります。
※科目表記は一部小科目のみとしています。

純資産		(単位=百万円)		
科目	2023年度末	2022年度末	増減	
第1号基本金	40,328	43,684	▲3,357	
第2号基本金	0	0	0	
第3号基本金	1,006	1,004	2	
第4号基本金	691	691	0	
基本金合計	42,025	45,379	▲3,355	
翌年度繰越収支差額	▲4,132	▲7,234	3,102	
純資産合計	37,893	38,145	▲253	

負債・純資産合計		(単位=百万円)		
科目	2023年度末	2022年度末	増減	
負債・純資産合計	45,672	46,331	▲659	

貸借対照表の推移



キャンパス整備計画の実施に伴う新校舎建設や旧校舎解体、土地の売却・取得により有形固定資産及び特定資産が年度により増減しています。2023年度は高校のキャンパス移転に伴う旧校舎の解体により減少しました。また、高校旧校舎解体により第1号基本金の取り崩しを行ったため基本金が減少し、繰越収支差額が増加しました。

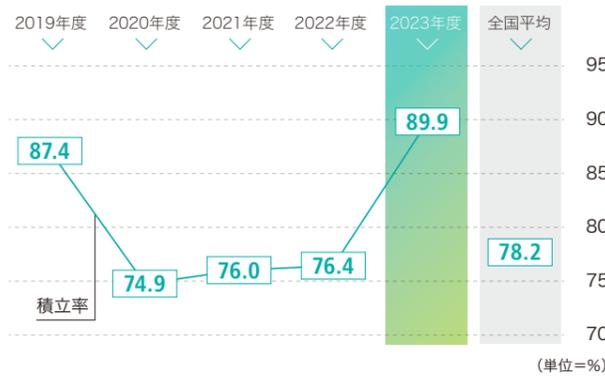
これらキャンパス整備の資金として、低金利環境のもと市中銀行等からの借入金を活用しており、負債が増加していますが、特定資産の取り崩しは最小限に抑えられています。

主な財務指標の推移

※全国平均は、日本私学振興・共済事業団調 医歯系法人を除く大学法人の2022年度の比率です。

分類① 長期的に必要な資金が蓄積されているか(持続性)

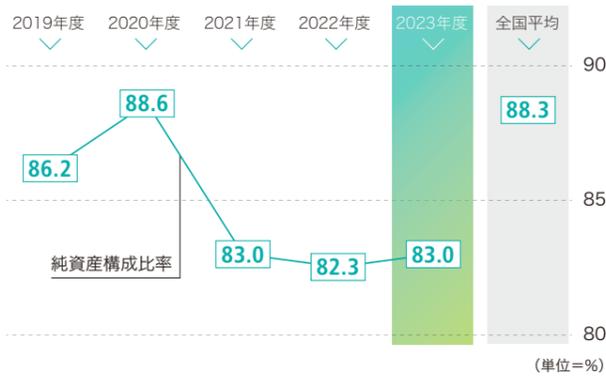
比率名	積立率
算出方法	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$
比率の意味	学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表します。 「運用資産=現金預金+特定資産+有価証券」 「要積立額=減価償却累計額+退職給与引当金+2号基本金+3号基本金」
評価基準	高い方が良い



キャンパス整備の資金に充当するため運用資産を取り崩しており、近年は減少傾向にありましたが、2023年度は高校旧校舎の除却により要積立額が減少したため、大幅に改善しました。

分類② 自己資金は充実されているか(安定性)

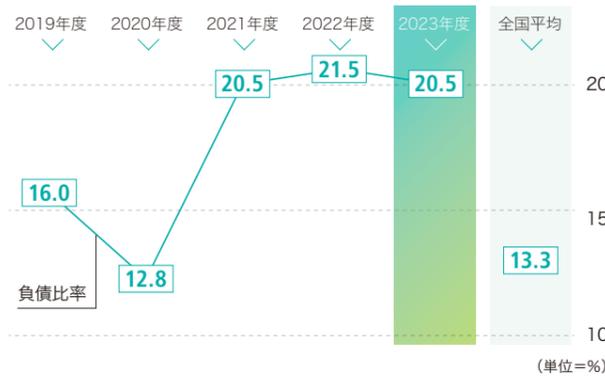
比率名	純資産構成比率
算出方法	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債+純資産}}$
比率の意味	負債と純資産の合計額に占める純資産の割合です。この比率が高いほど財政的には安定しているとされています。
評価基準	高い方が良い



2021年度に30億円、2022年度に7.85億円の借入れを実施したため負債が増加し、純資産構成比率は低下しましたが、自己資本が他人資本を大きく上回っており、財政的には安定しているといえます。

分類③ 負債の割合はどうか(健全性)

比率名	負債比率
算出方法	$\frac{\text{負債}}{\text{純資産}}$
比率の意味	他人資本と自己資本との割合で、他人資本が自己資本を上回っていないかを測る比率です。100%以下で低い方が望ましいとされています。
評価基準	低い方が良い



2021年度に30億円、2022年度に7.85億円の借入れを実施したため、負債の割合が高くなっています。



IV

収益事業について

本法人は、収益事業として保険薬局「北海道科学大学附属薬局」の運営を行っており、その収益を教育研究活動に充てています。私立学校法に基づく収益事業を行う法人は、企業会計に基づく会計処理と計算書類の作成が義務付けられています。
※2018年4月1日から名称を「北海道科学大学附属薬局」に変更しています。

決算の概要

営業損失はマイナス16.8百万円となりましたが、営業外収益として退職金財団交付金等16.9百万円を計上したことにより、当期純利益は9万円となりました。前年度に続き、学校会計への繰り入れはできませんでした。

なお、収益事業であります附属薬局は2024年4月1日をもって事業譲渡いたしました。貸借対照表の純資産の部、元入金及び繰越利益剰余金は学校会計へ戻し入れます。



▶▶ 損益計算書

科目	2023年度	2022年度	増減
売上高	461.3	438.8	22.5
売上原価	374.7	349.9	24.8
販売費及び一般管理費	103.5	104.7	▲1.2
営業外収益	16.9	6.7	10.3
営業外費用	0	0.3	▲0.3
経常利益(損失)	0.1	▲9.4	9.5
学校会計繰入金支出	0	0	0
税引前当期純利益(損失)	0.1	▲9.4	9.5
法人税・住民税及び事業税	0	0	0
当期純利益	0.1	▲9.4	9.5

▶▶ 貸借対照表

資産の部				負債の部			
科目	2023年度末	2022年度末	増減	科目	2023年度末	2022年度末	増減
流動資産	214.8	201.9	12.8	流動負債	71.8	55.9	15.9
有形固定資産	9.3	11.1	▲1.8	固定負債	0	5.0	▲5.0
無形固定資産	0.1	0.1	0.0	負債計	71.8	60.9	10.9
敷金	26.0	26.0	0.0				
資産計	250.2	239.2	11.0				
				純資産の部 (単位=百万円)			
				科目	2023年度末	2022年度末	増減
				元入金	120.0	120.0	0
				利益剰余金	58.4	58.3	0.1
				純資産計	178.4	178.3	0.1
				科目	2023年度末	2022年度末	増減
				負債・純資産の部合計	250.2	239.2	11.0

※各科目ごとに表示単位未満を四捨五入しているため、端数調整により差異が生じる場合があります。